第83号
2022/4

PVかながわ ニュースレター

Report

フォーラムPVかながわ（4月10日）報告
「2050年にカーボンニュートラルは可能か?」

4月10日、PV-net神奈川地域交流会のフォーラムを開催し、46名の参加をいただきました。オンライン参加40名・サテライト会場参加6名（内訳：講師3名、PV-net会員21名、非会員22名）
講師の皆様にはそれぞれのお立場からの貴重なお話をいただき、2050年カーボンニュートラルを必ずの実現に向け、気持ちを新たにしたフォーラムとなりました。
下記に講演内容を簡単にご紹介します。またホームページで当日資料とQ＆Aをご覧いただけますので、併せてご覧ください。 http://pvkanagawa.livedoor.blog/

基調講演　江守 正多氏
（東京大学未来ビジョン研究センター教授
国立環境研究所上級主席研究員）

「気候危機のリスクと社会の大転換」

まず、2021年IPCC第6次評価報告書で「人間の影響が気候システムを温暖化させてきたのは疑う余地がない」と断言されたこと、温暖化の今後のシナリオ、8つの代表的な主要リスクの話をされました。さらに「脱炭素化」のためには社会の「大転換」が起きる必要がある、化石燃料が余っていても使うのをやめなければ脱炭素は実現できない、人類は「化石燃料文明」を今世紀中に卒業しようとしている、という力強いメッセージをいただきました。

塩 将一氏（積水化学工業㈱住宅カンパニー）

「2050年カーボンニュートラルに向けた太陽光発電の有り方」

ゼロエネルギーハウス（ZEH）の定義、新築住宅のZEH化率、ゼロエネルギー達成状況、蓄電池、エコキュート、VtoH（電気自動車のバッテリーで家の電気を賄う）などについて、多くのデータを駆使しながらお話いただきました。参加者からは多くの質問や意見が書き込まれ、建物をめぐるカーボンニュートラルへの関心の高さが伺えました。

（出展: 塩さんの講演より抜粋）

林田 真秀氏（相模原市民）

「エネルギー選択で『パリ協定チャレンジ』のすすめ！～ 10年間、家庭のCO_2排出量を記録して 見えてきたこと～」

林田家は2011年からパリ協定チャレンジを始め、カーシェアリングへの切替え、公共交通機関利用、電気を再生可能エネルギー100%に変えるなどで、約70%のCO2削減を実現しているそうです。我慢の省エネでCO2削減ということでなく、CO2排出係数の低いエネルギーを選択する「選エネ」という視点で、楽しみながら大きな成果をあげている素晴らしい取り組みです。　（北村記）

世話人から

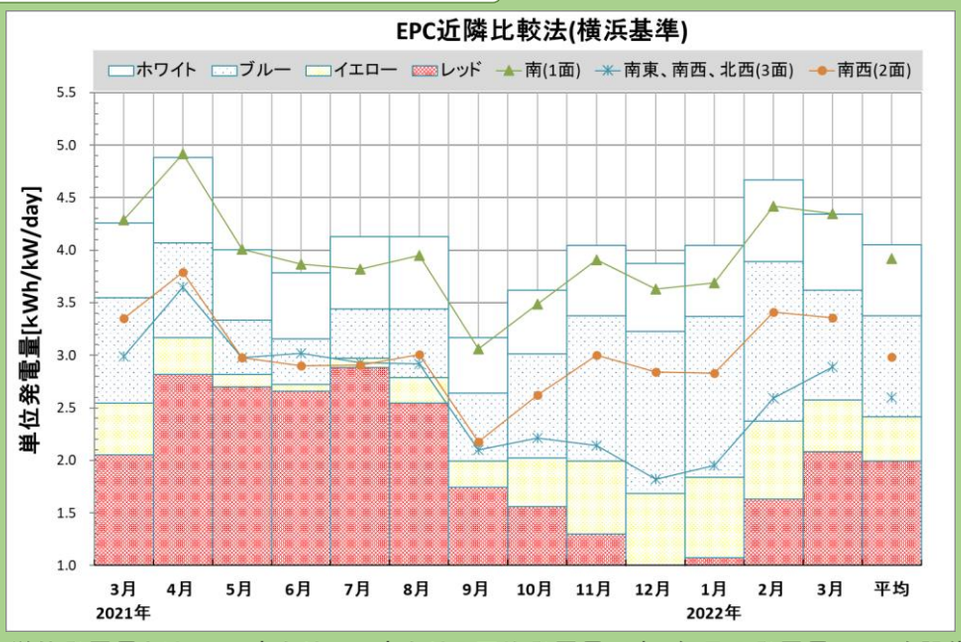
連絡事項

今後の予定

「開港祭」出展
6月2日（木）10:00～16:00
横浜市臨港パーク

「YES環境教育出前講座」
ストップ温暖化！
～私たちに何ができるか～
ソーラーバッタワークショップ
6月12日（日）10:00～11:30
横浜市野七里地域ケアプラザ

今月の単位発電量！



気象庁によると3月は「北日本では寒気の影響を受けにくかったが、繰り返し低気圧が通過したため曇りや雪または雨となった日があり、19日には発達した低気圧が通過したため太平洋側でも各地で大雪となった。一方、移動性高気圧に覆われて晴れた日が多く、低気圧の影響を受けにくかったため、東日本の降水量は少なく、東日本太平洋側の日照時間は多かった。18日は低気圧が本州付近を通過して東・西日本太平洋側を中心に大雨となり、22日には本州南岸を前線を伴った低気圧が通過して東日本太平洋側の平野部でも雪となった所があった。また、26日～27日には二つ玉低気圧が本州付近を通過し、荒れた天気や大雨となった所もあった。シベリア高気圧の勢力は平年より弱く、全国的に寒気の影響を受けにくく、北・東日本の気温は高かった。」

単位発電量とは、1kWあたり、1日あたりの平均発電量です。毎月の発電量[kWh]を設備容量[kW]と日数で割ってください。
平均は直近12か月の単位発電量です。一般的に単位発電量は、ブルーの範囲になることが期待されます。北西など、やや北向きがある発電所はイエローになることもありますが、レッドが続く場合は、メーカなどに相談することをお勧めします。
※近年の太陽光システムは均質化や効率改善が進み、2000年初頭の物に比べ、実発電量が10%以上多くなることもあるので、補足としてホワイトを設けました。